社会参画の視点を生かした学級づくり

－クラス会議の実践を通して－

生田目　克紀
教育実践高度化専攻児童生徒支援コース

１．主題設定の理由

近年の急変する社会情勢に適応できず，不登校児童生徒や大人の引きこもりの数が増加している。学校教育の中でそうした問題に対して，何かできることはないかと問題意識をもっていた。

その問題の解決のキーワードとして考えたのが「社会参画」である。所属する集団に率先して関わろうという社会参画の視点が育まれれば，刻々と変化していく社会に対しても，主体的に関わることができるようになり，上述した問題の解決に迫ることができると考えた。

２．研究の内容

(1) 研究のねらい

学級における実践的なクラス会議の実施方法と実証的な成果の検証方法を考案し，実施することを通して，社会参画の視点をもった児童を育み，望ましい学級づくりの方法について究明する。

(2) 研究の仮説

学級において，クラス会議を定期的，日常的に実施していけば，社会参画の視点をもった児童が育ち，望ましい学級づくりができるであろう。

(3) 基本的な考え方

① 社会参画とは

小学校学習指導要領特別活動編(平成 29 年告示)には「『社会参画』とは，よりよい学級・学校生活づくりなど，集団や社会に参画し，様々な問題を主体的に解決しようとする視点である」と述べられている。そこから，本研究における社会参画の視点をもった児童の姿を「クラスの一員として主体的にクラスに関わり，よりよいクラスにしていくための諸問題を自発的，自治的に解決しようとしている」と定義する。

② 社会参画の視点をもった児童を育てるために

小学校学習指導要領特別活動編には，社会参画に必要な資質・能力が育まれるためには「集団の中において，自発的，自治的な活動を通して，個人が集団へ関与する」機会を設定することが必要であると述べられている。学級集団の中で，「個人が集団へ関与する」「自発的，自治的な活動」として，話合い活動を取り入れていく。その方法として，アドラー心理学をもとに考えられた話合いの方法であるクラス会議を実践する。

③ クラス会議について

アドラー心理学では，他者とのつながりの重要性を説いていて，学校教育における人間関係形成に有効であることが多数の先行研究から実証されている。

クラス会議には，いくつかの特徴がある。それは，議題の持ち方が個人の課題もあり得ることや，結論がクラス全体での合意が必要とされないことなどである。それは，クラス会議

の目的が問題の解決ではなく，児童同士のつながり感覚の育成にあるからである。クラスの問題解決をねらうのではなく，クラスみんなで話合いたいことを決定し，解決を目指す過程において，クラスメイト同士が「仲間」と認識でき，仲間同士がつながっていくことをねらいとし，クラス会議を実践する。

３．研究の実践

(1) 対象　茨城県Ｘ小学校　第５学年Ｙ組　37 名（男子 21 名，女子 16 名）

(2) 対象期間　2022 年４月～2022 年 11 月

(3) 実態分析の手立て　「小学生版共同体感覚尺度」「コンプリメントの記述の分析」

(4) クラス会議の実施方法

本研究では，クラス会議を図１のように実践した。①のように，ICT を活用し，会議の前に児童が自由な時間にコンプリメント（クラスメイトのよいところを伝え合う）と議題解決策を PC 上で記入し，自分の考えをもって会議に参加することで，会議参加への心理的安心感をもてるようにした。②によって児童間の優劣をなくし，平等性と対等性を保証することをねらった。③によって，児童が日常の中でクラスメイトのよさを見つける視点をもてるようにした。④によって，自分の意見がクラスメイトの役に立ったという有用感やクラスメイトのおかげで問題解決ができたというつながり感覚を得ることができると考えた。

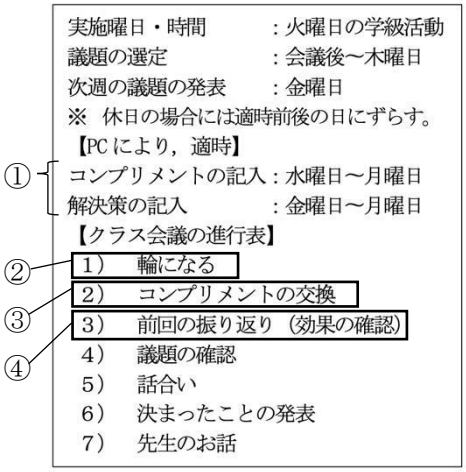

図１．クラス会議の実践方法

４．研究の結果と考察

(1) 小学生版共同体感覚尺度の結果から

小学生版共同体感覚尺度を４月と 11 月に実施した。それらの平均値を対応ある t 検定で比較し，クラス会議の効果を測定した。「貢献感」「所属感・信頼感」「自己受容」の下位尺度での結果は，「所属感・信頼感」において有意な上昇が見られた。４月の時点ですでに各質問項目の平均値が 4.29 と高い値であったにも関わらず，有意な上昇が見られたことは，クラス会議の実践が所属感・信頼感の向上に有効な手立てであることが言えると考える。

(2) コンプリメントの分析から

児童のコンプリメントの記述を見ると，自分に近い友達との趣味の話題から，自分には直接関係のない，クラスのための行為をよいこととして取り上げるようになったり，自分がまちがっていたことをクラスメイトから指摘されたことを「よいこと」として認識するようになったりしていた。クラスメイトを仲間として捉えるようになってきたことが分かった。

５．研究の成果と課題

クラス会議の実施によって，クラスへの所属意識が高まり，クラスの出来事を自分ごととしてとらえる児童が増えていくことが分かった。本研究の特徴の１つである ICT の導入によって，児童に心理的安心感や教師に見通しをもたせ，クラス会議の実践を容易にする効果が見られた。

会議実施のための時間の確保は課題である。より効果的で実践的な方法を今後も引き続き検討する。